

東京病院ニュース

増刊号

発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

臨床研究部長 新任のご挨拶

臨床研究部長 松井 弘稔



私の場合には、新任といっても内部からの昇格なので目新しさはありませんが、4月から臨床研究部長という幹部の一員となりました。よろしく申し上げます。私は2005年4月から当院に勤務していますので、今年で12年目となります。12年も同じところに勤務するのは初めてですが、院内での役割が少しずつ変化し、管理職としての仕事が増えてきていたところで、今年からは臨床研究部の長としてのみではなく、病院幹部の一人としてその職責も大きく変化します。

臨床研究部という部署には、臨床研究をしながら診療をしている医師、主に基礎研究をしている大学院生、実験助手さん、さらに治験管理室のスタッフ、などが所属しています。6つの研究室があり、それぞれに室長がいて、それぞれの分野で臨床研究を行っています。東京病院の役割の一つに、患者さんに安全で質の高い医療を提供するというのがありますが、そのためには医学研究や新薬の治験もかかせません。これらなしには医学の進歩はないともいいと思います。現在の医療の一步先に行く臨床研究部の発展のために全力投球していきます。



正面玄関前花壇

看護部長 着任のご挨拶

看護部長 小野瀬 友子

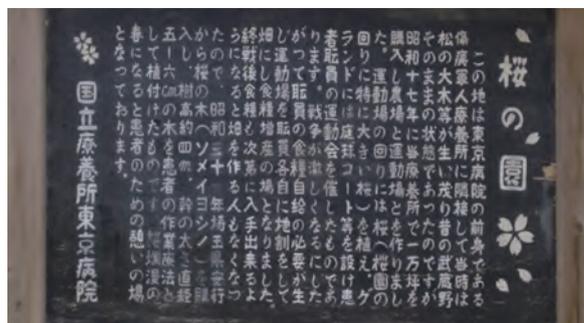


4月1日付で国立病院機構千葉医療センターから配置換えで参りました。どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、さる4月6日、敷地内の「桜の園」で新しい桜苗の植樹があり、立ち合わせていただきました。桜の園の桜は昭和30年に植えられ、毎春、療養中の皆様の憩いの場となっていることを知りました。今日まで60余年。傍らには移設された「外気舎」もあります。当地で療養生活を送られた多くの患者の皆様の目にこの桜はどのように映っていたのでしょうか。植樹の当日は、満開の桜、青空、新緑、そして風に舞う桜吹雪。太田院長の御入りに続き、事務職員総出で新たに30本の桜の苗が植樹されました。皆様も是非訪れて見て下さい。私は、東京病院が8施設目の勤務施設となります。異動して、勤務環境が変わることは、とても緊張するものです。着任直後に、このような場に居合わせることができ、心和むと同時に結核治療における当院の偉大な歴史的経緯を実感しました。当院で仕事できることを誇りに思い、私もしっかりと根を張り頑張ろう、と決意を新たにしました次第です。

さて、看護部に目を転じますと国立療養所東京病院として発足した昭和37年から、看護部長は私で21人目となります。看護部門は病院職員の半数以上を占める最大部門です。看護部の善し悪しが病院の善し悪しを決めるといっても過言ではありません。当院の看護職員は皆、真面目で優しく、高い向上心を持った自慢できるスタッフ揃いです。この看護師たちが働き続けられる職場作りの推進と、ワークライフバランスを踏まえたキャリア開発支援、人材育成と看護師確保が当面の課題です。

医療提供体制改革の具体案が示され、各病院における地域との連携や機能分担など、もはや変化についていくのでは遅く、新たな価値を生んでいくことが求められていると実感する毎日です。看護部として、長期的な展望を持ち、今為すべき事を見極めながら、情熱をもって実効ある取り組みをしていきたいと思ひます。



地域医療連携部長 新任のご挨拶



呼吸器科 益田 公彦

このたび地域医療連携部長を拝命いたしました呼吸器科の益田公彦でございます。これまで神経内科相澤部長・呼吸器内科廣瀬部長のもと、病院のおもて玄関としての業務を、室長の立場で支えてまいりました。地域医療連携室という部署は一般の方々には馴染みの薄いところですが、患者さんがかかりつけているクリニックや診療所の医師、在宅診療の医師、訪問看護や介護にたずさわる多職種の方々と連携をとりながら、患者さん一人ひとりにあった日常生活を送っていただくことを、サポートさせていただくところです。また一方で当院の高度専門医療や救急医療を受けていただくために、連携医や医療機関から患者さんをご紹介いただき、スムーズに入院を受けいられるよう、入退院のベッドコントロールをしているところでもあります。東京病院は2月に地域医療支援病院に指定されました。地域における東京病院のあり方を地域の先生方とともに考え、東京病院のスタッフと地域の多職種の皆さんとの連携を強化し、顔の見える医療体制の実現を目指し、柔軟に舵をとってまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

新任のご挨拶



呼吸器内科専修医 佐藤 研人

4月より呼吸器内科専修医として参りました、卒後5年目の佐藤研人と申します。東京慈恵会医科大学を卒業後、付属病院での初期研修を終え、同院呼吸器内科医局に所属し、当院に着任致しました。

呼吸器疾患は疾患範囲が幅広く、疾患ごとに適切な治療を考えていかなければならないため難しい分野と感じる反面、やりがいも感じて日々治療を行っております。呼吸器疾患の患者さんは生活が制限される事も多く、入院中から退院後まで出来る限り最良の治療・生活を送っていただけるよう、患者さん・ご家族・医療スタッフと相談しながら頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



呼吸器内科専修医 佐藤 俊

杏林大学医学部附属病院高齢診療科から出向で参りました佐藤俊です。高齢診療科では主に後期高齢者を対象とした総合内科を学んでいました。

今回の出向は1年間と短い期間ではありますが、呼吸器疾患全般について貪欲に学びまた、それを還元していきたいと考えています。

未熟者であり、皆様にご迷惑をお掛けすることも多々あるかとは思いますが、ご指導ご鞭撻をいただけますと幸いです。よろしく願いいたします。



呼吸器内科専修医 名越 咲

4月から主に6西、7西病棟で呼吸器内科専修医として働かせていただいております。名越咲と申します。この病院だからこそ学べる知識を蓄えつつ、様々な職種の方と連携して、一人一人の患者さんにとって最も良い医療を共に探せる医師でありたいと思います。よろしく願いいたします。



呼吸器内科専修医 比嘉 克行

4月より後期研修医として着任した比嘉克行と申します。沖縄県の琉球大学を卒業後、初期研修を豊見城中央病院で修了し、その後2年間は那覇市立病院で内科一般を研修しました。

呼吸器内科を専門にしたいと思い、症例数の豊富な当院で研修を希望しました。

少しでも患者さんの為になるように日々精進していく所存です。沖縄県を出るのは初めてですので東京での生活にも早く慣れていきたいです。まだわからないことが多く、みなさんにご迷惑をおかけすることと思いますが、よろしくお願ひします。



呼吸器内科専修医 松木 明

今年度4月より呼吸器内科専修医として勤務させて頂くことになりました、松木明と申します。平成26年に東京大学を卒業後、同大学附属病院にて2年間の初期研修を終え、当院に参りました。呼吸器疾患を幅広く学べるこの恵まれた環境に感謝し、医療者・患者双方より信頼をおいて頂ける呼吸器内科医になれるよう、日々、精一杯努力して参りたいと思っております。ご迷惑をおかけする場面も多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



呼吸器内科専修医 横須賀 響子

4月より呼吸器内科専修医として勤務しております横須賀響子と申します。内科系後期研修を府中市の東京都立多摩総合医療センターで行いました。引き続きこの多摩地域で呼吸器内科診療をより深く広く学びたいと考え、歴史ある東京病院の門をたたきました。早くも多くの刺激を受けております。朝もやのけふる小道を新緑に癒されながらの出勤も新鮮です。心も新たに日々励みたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

看護部



副看護部長 宮澤佳子

平成28年4月1日付けで下志津病院よりまいりました副看護部長の宮澤佳子と申します。看護部をはじめ多職種スタッフと協同し、患者さんやご家族の立場に立った思いやりのあるあたたかい看護の実践を目指してまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



6西看護師長 佐藤 由美子

今年度より6西病棟にて勤務させて頂くことになりました佐藤由美子と申します。

20年ぶりに東京病院にて勤務することになり、周囲の環境の違いに大変驚きました。

やっとな建物の位置関係もわかり、患者さまの立場にたった思いやりの看護を行えるよう努力し、さらに地域の医療に貢献するべく尽力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

放射線



放射線科 診療放射線技師長 細越光夫

4月1日付で水戸医療センターより配置換えで参りました診療放射線技師長の細越光夫と申します。初めての東京病院勤務になりますが、広い敷地と満開の桜が深く印象にあります。歴史のある病院で勤務できることに感謝し、よりよい医療を目指し、他職種との連携を図りながら皆様にご指導ご協力を頂き、放射線科スタッフと力を合わせて少しでも貢献できるよう職務に務めたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。